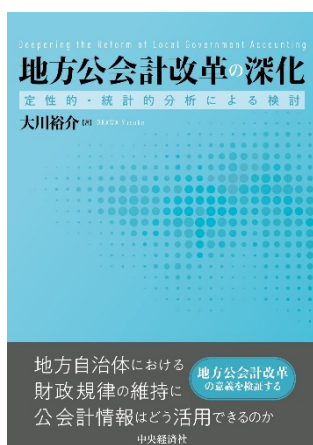


## 【 書 評 】



### 『地方公会計改革の深化—定性的・統計的分析による検討』

大川 裕介 著

株式会社中央経済社

2025年7月刊

A5判・236頁

本書は、地方公会計に関わっている方はもちろん、現時点で接点のない公認会計士の皆様にも手に取っていただきたい一冊である。1980年代以降に広がった New Public Management の潮流の下、世界各国で中央政府および地方自治体に発生主義・複式簿記を導入する動きが進展している。わが国でも 2003 年度より「国の財務書類」の作成が始まり、地方自治体は複数モデルの変遷を経て、2016 年度から「統一的な基準による地方公会計」の財務書類の作成が全ての団体に要請されている。本書は、公認会計士としての公会計情報の作成・活用支援、行政職員としての実務、大学教員としての研究という三つの経験を併せ持つ著者が、地方公会計の課題と対策を立体的に描き出した意欲作である。

まず、公認会計士として各自治体への支援業務に携わる中で、驚くような誤謬や作成業務の遅延に直面し、日々の行政運営や毎年度の予算編成等への公会計情報の活用が不十分であることに対する強い問題意識が語られている。さらに、従来の予算・決算制度に重ねる形で地方公会計が導入されている構造的課題を指摘し、具体的な論点の可視化と、解決に向けた実務的・制度的提言を行うことを本書の目的としている。

第 I 部では、フローとしての資金収支とストックの増減をもたらす資金収支を把握できる地方公会計の財務書類の特徴に着眼し、地方自治体の財政規律の維持に向けた新たな資金収支情報の活用を検討している。具体的には、事例分析、アクション・リサーチ、インタビュー調査等の手法により、従来の資金収支情報に、業務活動、投資活動、財務活動という三つの活動区分を設けることにより、地方自治体がコントロールすべきストック情報を把握できることを示している。また、ダブルバジェットの考え方に基づいて予算・決算制度を見直すことにより、財務書類作成の非効率性の解消や財務規律の維持に望ましい影響をもたらす可能性を指摘している。

第 II 部では、発生主義にもとづく情報を用いた統計的なアプローチによって地方公会計から得られる、資金収支情報にとどまらない情報の可能性を広範囲に検討している。具体的には、地方公会計から得られる情報が地方自治体の財政状態の変動を適切に表しうることを明らかにしているほか、公会計を利用した財政指標により、将来の余剰の現在価値と純負債残高のバランスによる財政評価が可能であることを指摘している。

終章では、地方公会計から得られる情報や財政指標で、地方自治体の財政健全性を評価するツールとして活用できることを明らかにし、地方公会計に求められる具体的な改善方策

の提言を行っている。

様々な経験を経た視点で、わが国の地方公会計を切り取る描く本書は、地方公会計の制度設計、行政実務に関わる関係者だけではなく、会計専門家として地方公会計を支えていく役割を担う公認会計士にとって、多くの示唆を得ることができると思う。

以上より、本書は日本公認会計士協会学術賞一会員特別賞に値するものとして選定した。

(評者 学術賞審査委員会委員 那須伸裕)

## 著者の略歴

大川 裕介

九州共立大学 経済学部 教授 博士(商学)・公認会計士

1993年 神戸大学 文学部卒業

1995年 大阪府庁 入庁(2011年まで)

2013年 有限責任監査法人トーマツ 入所(2018年まで)

同年 公認会計士登録

2021年 ノースアジア大学 経済学部 専任講師

2022年 関西大学大学院 商学研究科 博士課程後期課程修了、博士(商学)の学位を取得

同年 大阪経済大学 経営学部 専任講師

2025年4月より現職

主要著書:『入門 公会計の仕組み』馬場英明・大川裕介・林伸一編著、中央経済社、2016年。『公会計と公共マネジメント』馬場英明・大川裕介・横田慎一、中央経済社、2021年。